

URA 補助事業での 取組・成果 及び 課題

<京都大学の事例>



March 25, 2017

KURA

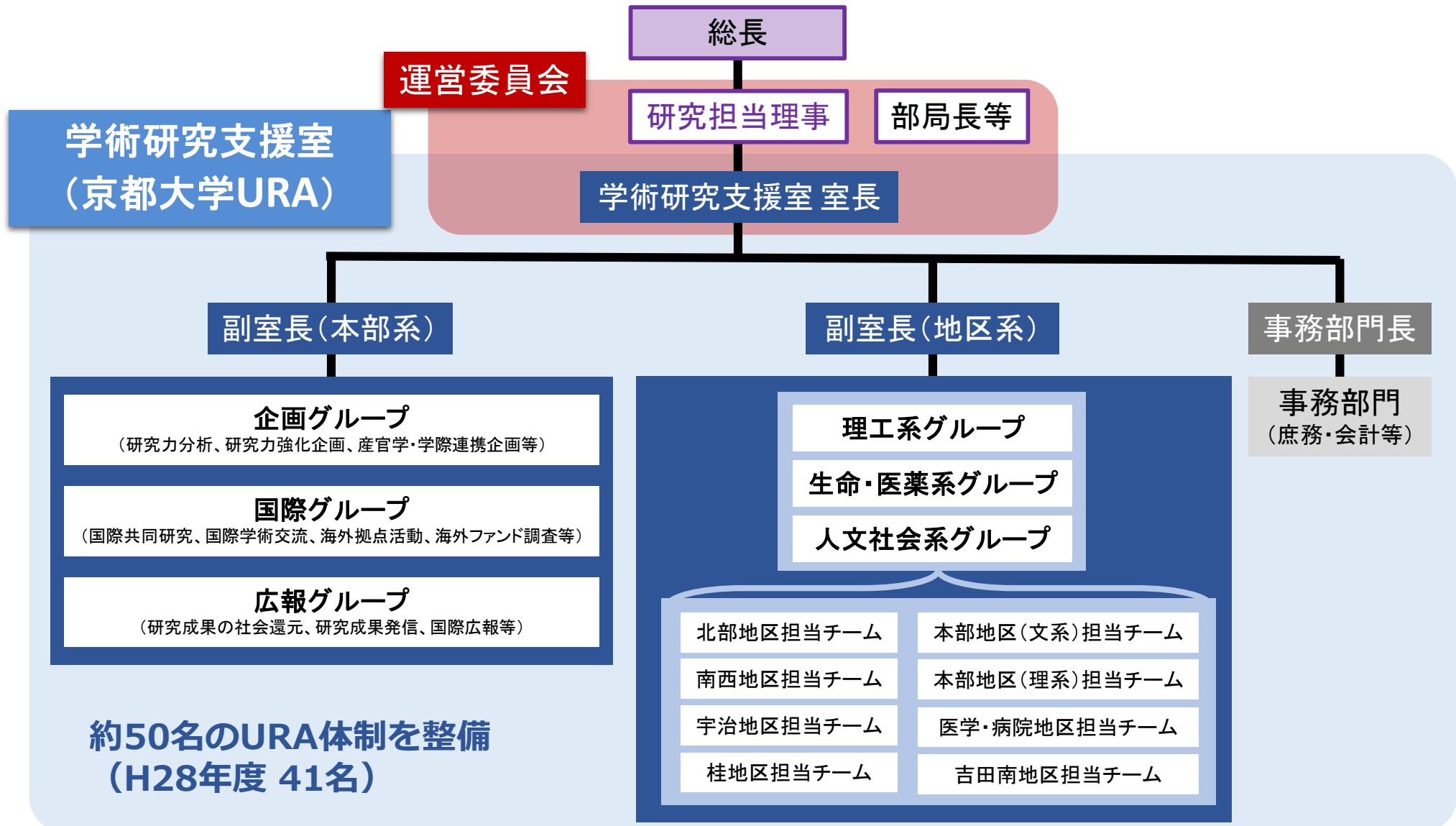
京都大学 学術研究支援室

Kyoto University Research Administration Office

副室長 関 二郎

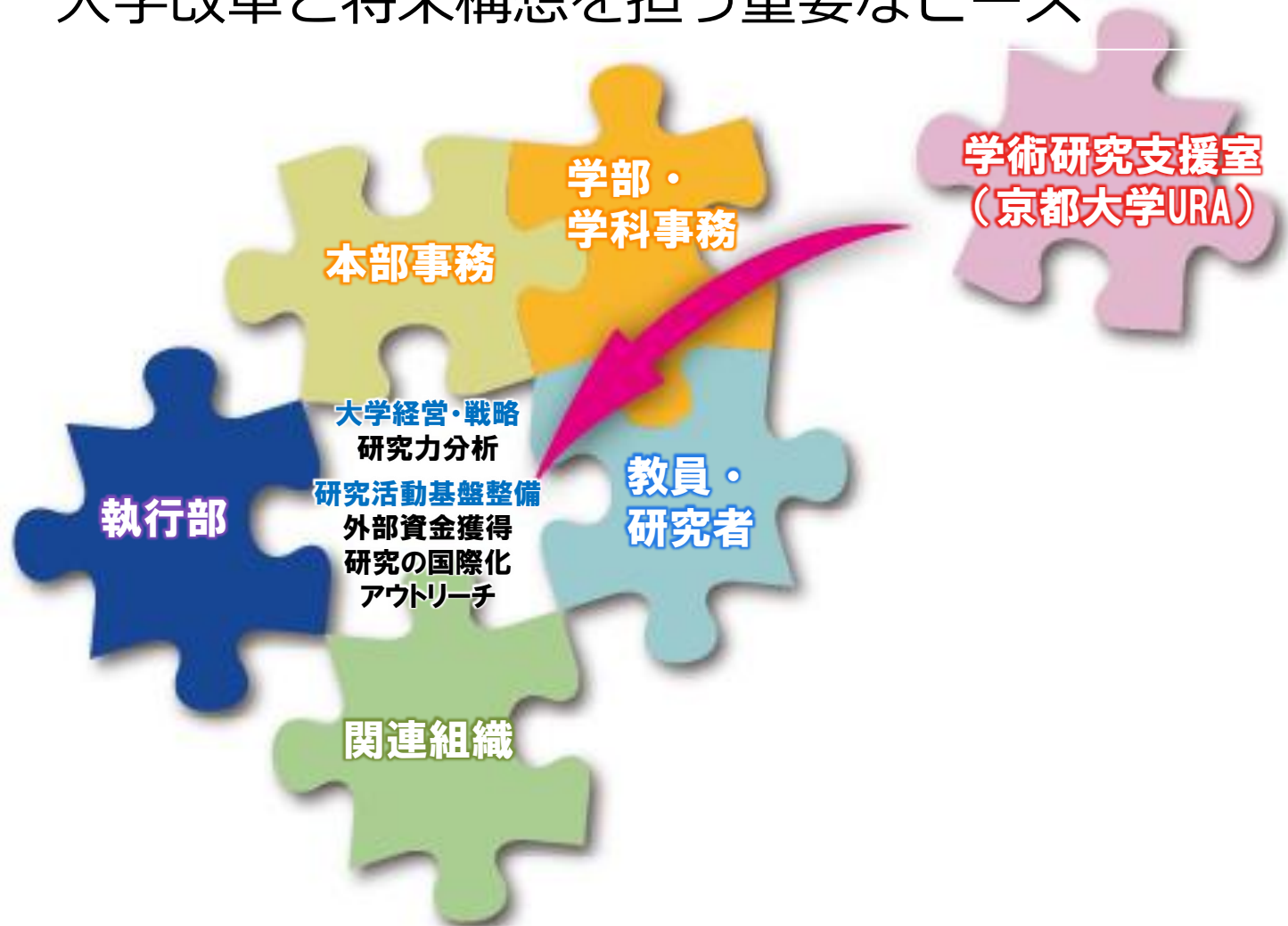
現状：学術研究支援室の体制

研究担当理事直下の組織。本部URAと地区URAを一元化（H28）



現状：URAの位置づけ

大学改革と将来構想を担う重要なピース



- ✓ 教員・研究者、執行部、事務組織、関連研究支援組織間と協働し、研究力強化、国際化、大学経営等を戦略的に支援・推進

URA整備事業*での成果概要

* :「リサーチ・アドミニストレーター(URA)を育成・確保するシステムの整備」事業

① 国内最大規模のURA組織

- ・ 設立時8名→現在41名
- ・ 自主財源の投入（総額約3.5億円、うち人件費として約2億円）



② 研究推進体制の高度化・効率化に向けたURA組織の体制整備

H24	研究担当理事直下に学術研究支援室を設置
H24 ~	自主財源による京都大学URAネットワーク事業（部局URA室設置）
H27	URAネットワーク事業終了に伴う 学内URA体制の見直し
H28 ~	学術研究支援室と部局URA室の一元化

取組成果事例

- ① 研究力強化: 競争的資金の獲得支援を全学的・戦略的に実施
大型プロジェクトの採択に貢献、研究の国際化
- ② 大学経営へのコミット: IR機能の強化
- ③ 学外への波及: 全国のURA組織が来訪 → URA組織の先駆的モデルへ

取組成果事例（１）：外部資金獲得

政府系、財団、海外まで80種以上の研究資金獲得に貢献

「研究費獲得」に向けたの**4つ**のサポート

- ① 外部資金情報の提供
- ② 大型研究ファンドのチーミングサポート
- ③ 申請書のブラッシュUP
- ④ ヒアリング審査サポート

【支援実績（例）】

H28年度・科研費

- | | |
|----------|----------------|
| ➤ 支援総数 | 548件（カバー率：20%） |
| ➤ 支援研究者数 | 457名 |
| ➤ 外国人支援数 | 44件 |

（参考）採択率（H27年度） 41.5%（京大平均37.3%）

取組成果事例（２）：研究の国際化

5つのアクションで研究の国際化を推進

海外拠点の
運営・活用

1

国際型学内
ファンドの運営

2

国際シンポを
通じた機会創出

3

URAの
5つの
アクション

海外ファンド
獲得支援

4

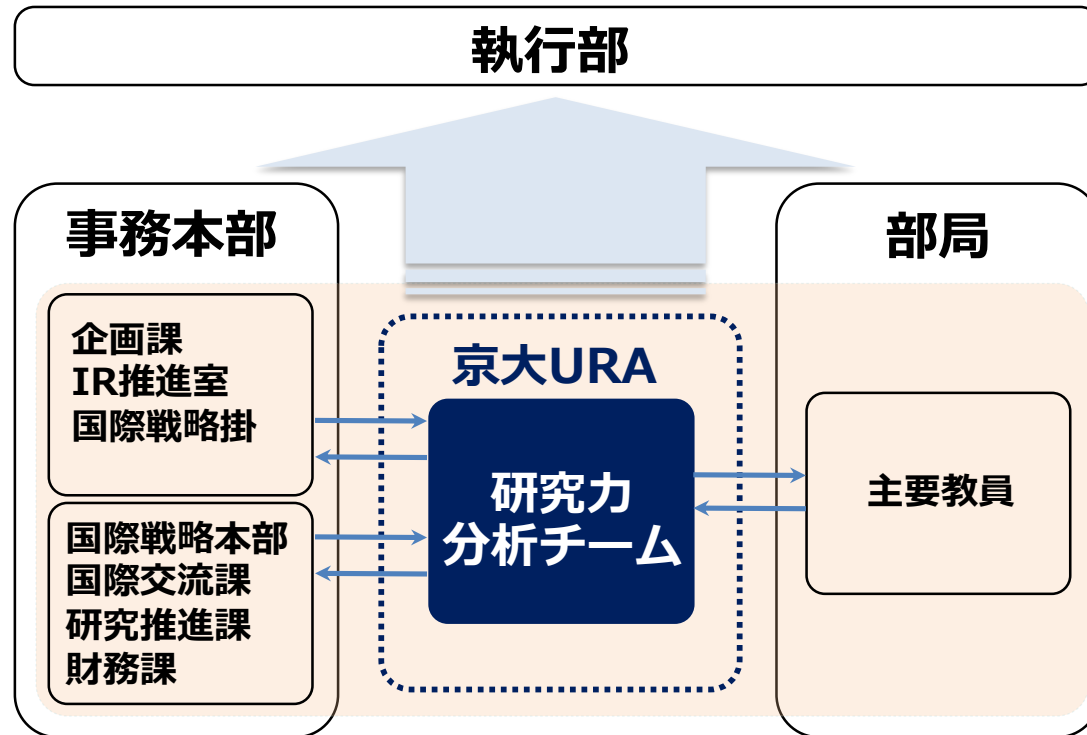
外国人
研究者支援

5

- ✓ 国際共同研究の推進
- ✓ 世界の研究大学と交流の推進
- ✓ 海外研究者の派遣・受入体制の強化

取組成果事例（３）：研究力分析

研究力分析チームを設置、研究力強化に向けた施策立案に貢献



URAの具体的業務例 例) 研究力分析資料の作成、大学ランキング分析

- ✓ 執行部・主要教員の施策立案に資する提案
- ✓ 国際戦略に資するデータ・分析結果の提供、提案
- ✓ 部局からの要望に応じた、書誌情報を含むデータ提供

取組成果事例（4）：学外への波及

KURA Web

業務内容の全体像
研究者向け研究支援情報



京都大学URA研究会

H24年度以降現在までに
20回、他大学URAも参加



研究会・シンポジウム

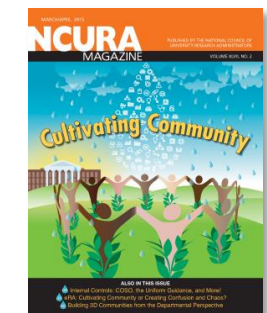
京都大学国際URAシンポジウム
(H24年度より毎年開催)

第3回URAシンポジウム・第5回
RA研究会を主催



NCURA Magazine

京都大学だけでなく日本の
URA活動を投稿（H26～）



平成29年5月 京都大学URA成果公開シンポジウム（仮称）を開催予定

取組成果事例（５）：職務環境整備

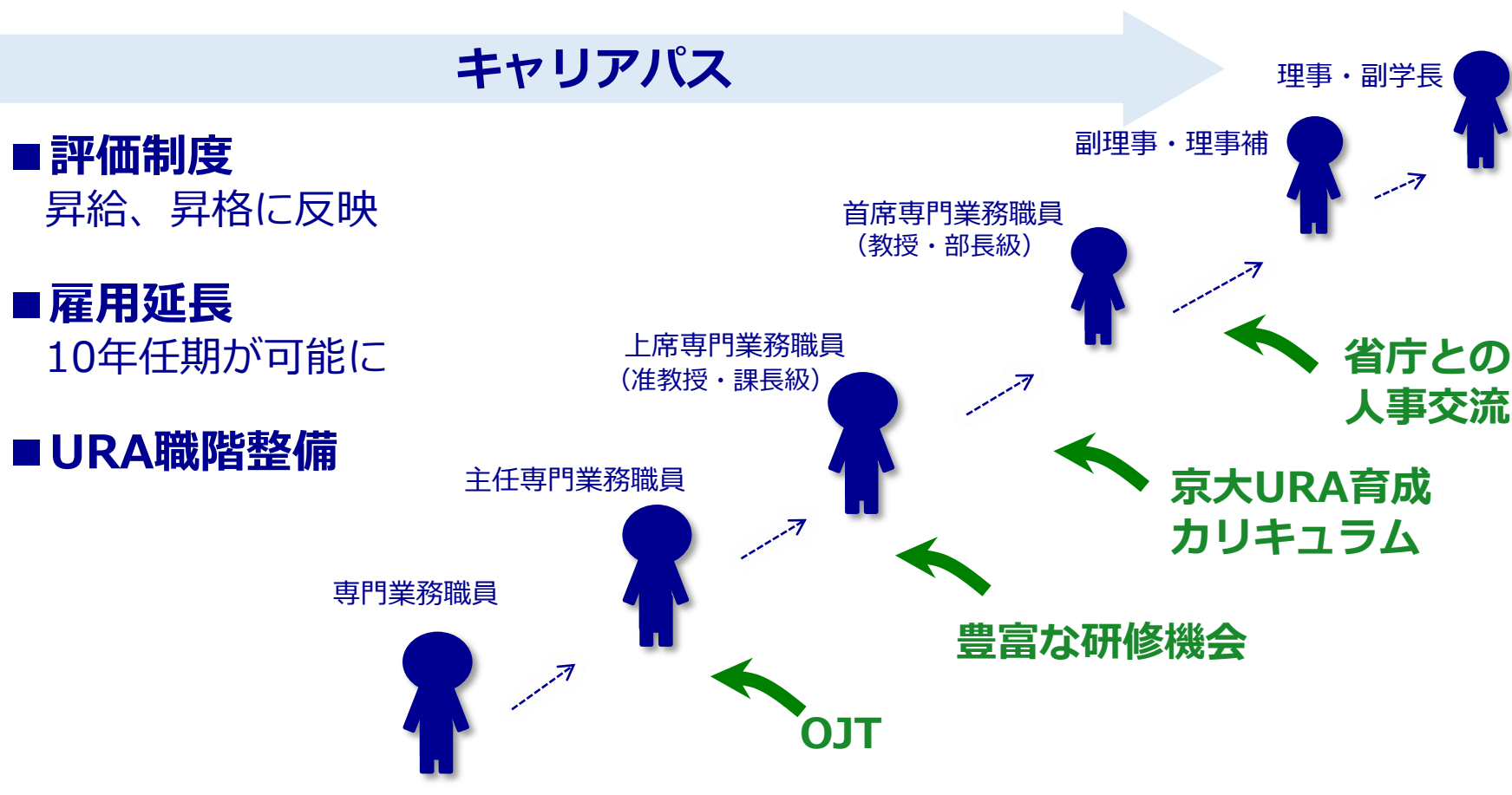
- ✓ 学術研究支援棟（約2,000m²）を自主財源で整備
- ✓ 一つ屋根の下で、全URAが情報共有・連携



学術研究支援棟
(KURA棟)

取組成果事例（6）：人事制度・育成システム

URA定着化に向け、人事制度・育成システムを整備



✓ **URA勤務評定実施要領の制定（H28）**

職位に応じた目標管理と評定要素で評価、昇給・昇格に反映

✓ **京大URA育成カリキュラム**

URAの知識基盤を確立、全員受講、さらに開発中

1. URAシステムの定着化

財源確保

補助事業終了（H34）後を見据えた財源の確保

安定雇用・キャリアパス

評価に連動した無期雇用化を可能とする人事制度の整備

2. URAへの期待・役割の明確化

研究者支援、国際化、広報、大学経営、IR、産学連携、教育、、、
→ 選択と集中が必要

大学の発展、新たな価値創造にとって欠くことのできない存在に
→ 目に見える成果と認知度向上が必要

3. URA人材確保と育成

優れたURA人材の確保、高度な専門性の維持・向上